



ロータリーは機会の扉を開く
Rotary Opens Opportunities

WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなのためになるかどうか

- 会 長／長嶋 明彦 □副会長／川島 啓晃
□幹 事／依田 邦彦 □副幹事／三浦 新介

例会日：毎週月曜日 18:00～19:00

例会場：静岡グランドホテル中島屋

事務所：静岡市葵区追手町2-12 5F/ TEL 054-254-5611

2020-2021年度RI会長 ホルガー・クナーク「Rotary Opens Opportunities／ロータリーは機会の扉を開く」

令和3年4月19日(月)

No.1398
第1494回 例会

ホームページ
アクセス数

2021.4.20

47143

ゲ
ス
ト

ティーベアリング
マイスター

卓話者 石司 麻美 様

♪ 本日のロータリーソング「それこそロータリー」 ● ソングリーダー：岡崎 秀威 会員

長嶋 明彦 会長の時間



本日はお茶ソムリエの石司さんを迎え卓話をお願いしております。素晴らしい卓話の前に会長の時間を使い、少し話をさせていただきます。静岡は全国でも有名なお茶の産地です。では何故静岡にこれ程お茶が根付いたのかという事ですが、気候・水質はもちろん、「聖一国師」の存在が大きく関わっていると思います。「聖一国師」は静岡薬科の奥、現在の大井川地区柘沢の岩崎家で生まれた鎌倉時代の高僧です。大変な神童で、2歳で人々の言葉を理解し、周りの大人を驚かせたとのこと。5歳になり仏門に入ると、俱舎論を呼んだとい

うことです。俱舎論とはお釈迦様が亡くなり、100年を越しますと、解釈が色々変化されて本来の考えと違う方向に変わってしまった考えを、5歳で正しく人に説いたということです。その「聖一国師」が中国より仏教の教え、当時万病の薬と言われていた「お茶」を人々に飲んで欲しいという思いで、現在の足久保に実を蒔いたとのこと。その思いが現在に続いていると思います。前座を務めさせていただきました、石司さん

後ほど卓話を宜しくお願い致します。



■ 幹事報告 依田 邦彦 幹事

- ・4/25 地区研修協議会 (You Tubeライブにて開催)
- ・4/26 例会 (クラブ協議会)
- ・5/29 地区大会 (本日クラブ紹介動画撮影)
- ・5/10 例会 (理事会)

残り2ヶ月少し、スマイルのご協力をお願い致します。

■ スマイル報告 是永 英和 会員

■ 会員からのスマイル 総額 / 15,000円

長嶋会員 石司さん、本日卓話を宜しくお願い致します。

川島会員・依田会員・三浦会員・大杉会員・相川会員

安藤会員・岡崎会員

..... スマイルマンデーします。

溝口会員 4/17の当クラブゴルフコンペで計らずも優勝させていただきました。大雨の中、大変でした。

岡本会員 いよいよ野球は県大会に。コロナ禍でスポーツ観戦が楽しみです。

金丸会員 4/17(土) 静岡中央RCのゴルフコンペを開催いたしました。少し雨が降りましたが、楽しく出来ました。次回も宜しくお願い致します。

松下会員 腰を患ってゴルフコンペを欠席してしまい、ご迷惑をお掛け致しました。

川田会員 無事に確定申告終わりました。スマイルマンデーします。

静岡中央ロータリークラブ週報

クラブ会報委員会 / 上條 康則 是永 俊晴



ティーペアリング
マイスター
石司 麻美 様

～ 日本茶の伝統と革新 ～



長嶋会長、先程は素敵なお茶の起源のお話し、ありがとうございました。

私は静岡生まれ、静岡育ちです。名前は読み慣れない「いしづか」という名字ですが、両親ともに九州出身です。

物心つく前から「日本茶」に親しんで生活してきましたので、お茶が当たり前、水の様な感覚で育ってきました。大人になって初めて日本茶の素晴らしさに目覚めて、そこから15年ほど、日本茶の普及に携わっております。日本茶カフェや製茶問屋などでお茶を作る現場を見たり、お茶の淹れ方、販売などに携わってきて、休日はお茶のイベントに出席したり、茶農家さんを回ったりとか、「なんでそんなにお茶が好きなの?」と呆れられるくらい、お茶好き・お茶バカとして活動してきました。お茶好きが高じて、4年前から、担い手が少なくなっている、放置されているお茶畑を4アールほどお借りして、「ほうじ茶畑」の復興と、自分自身の勉強として栽培に携わっています。今日は皆様に失礼のないような格好をしてきましたが、週末は手拭いを巻いて畑仕事に勤しんでいます。私自身もここまで日本茶に魅了されるとは思わず、日本茶の世界に飛び込みました。日本茶を紐解いたときに、世界中にある紅茶・中国茶・ハーブティーの中でも、日本茶が唯一の「発明品」ということに気が付きました。紅茶・中国茶・ハーブティーなどは、様々な国の生活文化の中で変化しながら生まれていきましたが、煎茶というものは、約280年前、京都の永谷宗円という方の、たった一人の明確な意志のもとに生まれました。当時は献上茶として抹茶が主流で、上流階級の方が飲むことができたものでした。庶民は茶色のお晩茶を飲んでいました。永谷宗円さんは村人の生活を豊かにしたいという思いと、お茶という緑の葉に魅了され、お茶の可能性をもっと引き出したいと、たった一人で何年も何年も研究を重ねて、「煎茶製法」を開発しました。京都ではなかなか受け入れられず、永谷宗円さんは58歳のときに、思い切って「江戸に売りに行こう」と希望に溢れて、向いましたが、そこでも相手にされませんでした。江戸中まわって断られ、最後に望みをかけて向かったのが日本橋にあった「山本屋」というお茶屋さんでした。現在の「山本山」さんです。当主だった山本嘉兵衛さんという方が、そのお茶を飲むなり、ものすごく感動して、緑色の透き通った優しい旨味のある液体に感銘を受けて「天下一」という名前を付けて江戸中に売るから、永谷さんは一心になって作ることに集中して欲しいと伝えました。永谷さんの15年という努力プラス、山本嘉兵衛さんとの出会いがあって、素晴らしい煎茶というものを今の時代の私達が楽しむことができています。永谷さんの話をしてきましたが、「永谷園」のご先祖様です。

女性の方が多く講座を受けてくれますが、家族の健康や、企業の健康経営に役立つ人材を育てていきたいと考えています。また、今後は異業種の方とコラボしながら、日本茶の伝統と革新ということで活動をしていきたいと考えています。

委員会報告

今回はありませんでした。

出席報告

柳瀬 委員長

月/日	出席者数
4月19日(月)	26名

・総会員数43名(出席義務会員37名+出席免除会員6名)

～出席率向上へのご協力をお願い致します～